

病院事業の課題と方向性

事業管理者 宮永和夫

1. ゆきぐに大和病院の歴史
2. 魚沼基幹病院の歴史
3. 第1次医療再編の結末
4. 南魚沼の医療問題
5. 南魚沼市民病院群の今後

テーマ1.南魚沼市立病院群の歴史

1962年(昭和37年11月)

大和町国民健康保険診療所開設

ベッド数6床

常勤:産婦人科医



昭和49年以降 町保健課と
共同で地域医療活動を展開



老人健診



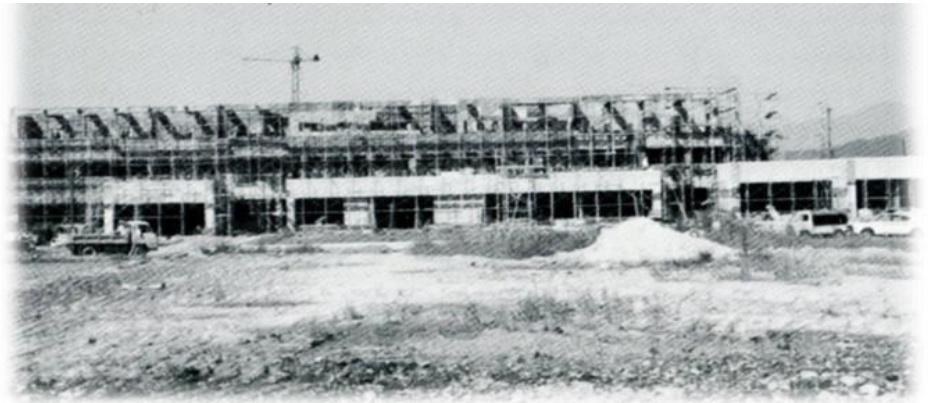
成人病(生活習慣病)指導会



病院の歴史 その2

1974年(昭和49年秋)
建設中の大和病院

さらなる地域医療の発展を
目指し...



自分たちの健康は自分たちの手で作ろう

1976年(昭和51年5月)
国民健康保険町立
大和病院開設
ベッド数86床



病院の歴史 その3

1983年(昭和58年2月)
病院増改築
国民健康保険町立
ゆきぐに大和病院 となる
ベッド数**152**床→**200**床



保健・医療・福祉の連携

1989年(平成1年5月)
検診棟 健友館開設

2003年(平成15年11月1日)
特養八色園移転(入所120名)



病院の歴史 その4

2004年(平成16年11月1日)
町村合併により
南魚沼市立ゆきぐに大和病院
へ改称

2006年(平成18年)9月
病院開設30周年
記念式典開催

2012年(平成24年)4月
日本医療機能評価機構
認定病院となる



病院の歴史 その5

魚沼基幹病院

ゆきぐに大和病院



病院の歴史 その6

2015年(平成27年)11月

ゆきぐに大和病院と
南魚沼市民病院に
2分する



ゆきぐに大和病院



南魚沼市民病院



ACCESS

- 上越新幹線浦佐駅を利用の場合
東京から …… 約1時間30分 新潟から …… 約40分
- 関越自動車道を利用の場合
東京から
 - ・六日町ICより国道17号線利用 …… 約2時間30分
 - ・大和スマートIC利用 …… 約2時間10分
 新潟から
 - ・小出ICより国道17号線利用 …… 約1時間30分
 - ・大和スマートIC利用 …… 約1時間20分



健康増進、予防、治療、リハビリの一体化



魚沼基幹病院とゆきぐに大和病院 の全景

魚沼基幹病院開院までの経過

H12 地元要望 ・小出病院東病棟の早期改築要望

H14. 6 知事が基幹病院整備の方針表明

H14-15 県説明会 ・魚沼地域の医療高度化検討委員会
議検討結果報告(医療高度化の基本理念等)

H16-17 有識者等意見集約 ・魚沼地域の医療高度化の
基本方針決定(基幹病院の機能等)

H18 県と地元市、地元医師会の協議 ・魚沼基幹病院等医
療提供体制の再構築の考え方(再編の基本的枠組み)

H19. 3 「魚沼基幹病院の設置に向けた新潟県と新潟大学の連携に関する覚書」の締結

H20. 1 知事が開院スケジュールの記者発表

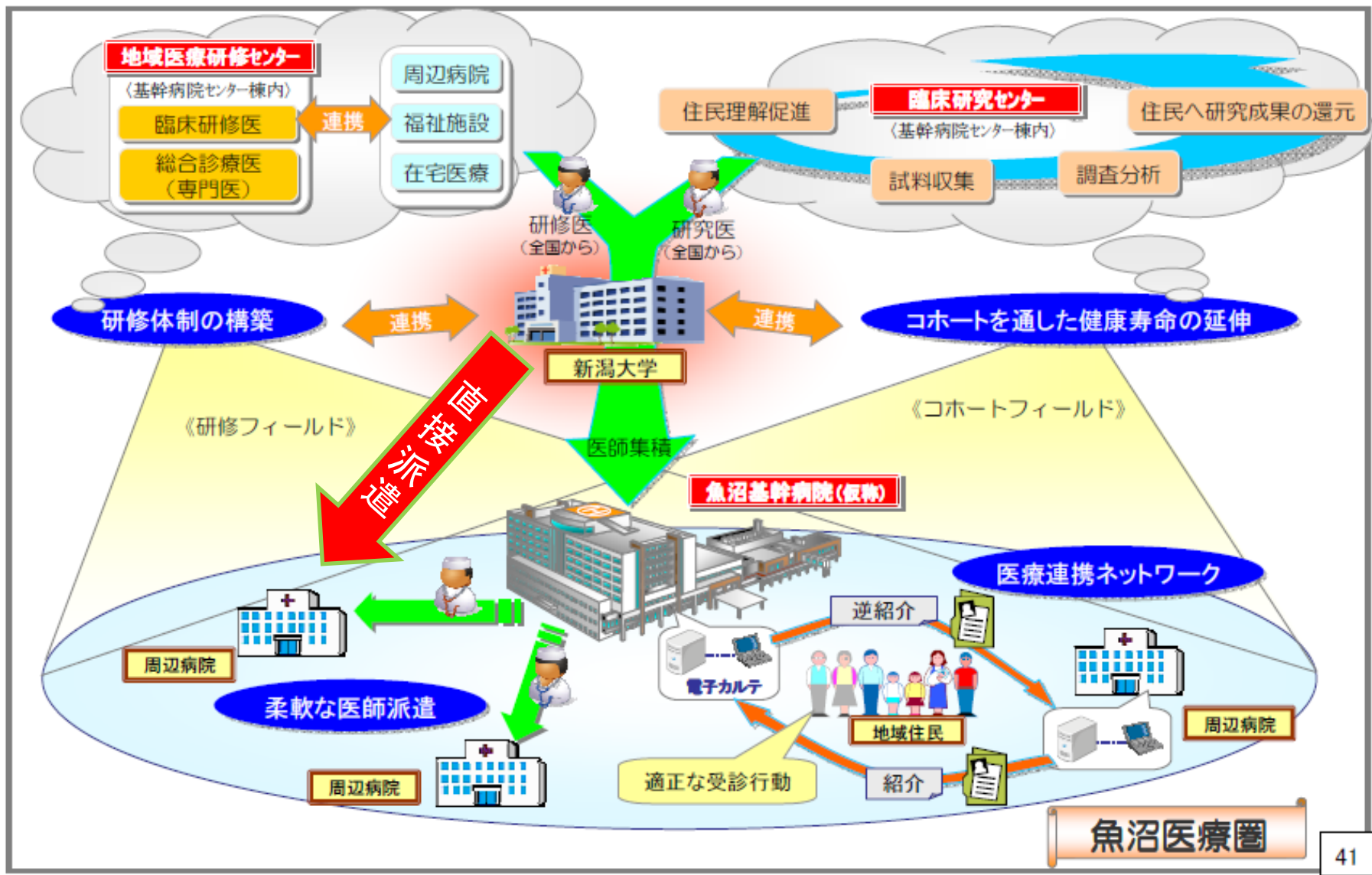
H20. 8-H21. 4 「魚沼基幹病院整備協議会」開催

H21. 5 県に提出・魚沼基幹病院と再編後の医療体制について(基幹病院と再編後の各病院の機能、規模等)

H21. 6 南魚沼市南魚沼医療再編アドバイザー会議(H23まで)

H24. 4 財団法人設立 H27. 6 開院

地域連携イメージ



《魚沼基幹病院（仮称）整備の基本的な考え方》

魚沼地域の拠点的医療を担う基幹病院として、地域に貢献する医療機関を目指します。

1 地域医療の充実と質の向上に寄与する

- 地域医療の担い手の育成
- 医師の集まるマグネットホスピタル

2 地域づくりに資する役割を果たす

- 将来に希望の持てる魅力ある環境づくり
 - ・ 地域産業の活性化
 - ・ 地域住民の健康寿命の延伸

3つの特色

- ① 医師等育成機能
総合診療医の育成など
- ② 研究機能
臨床研究機能など
- ③ スノーリゾートと外傷医療
地域の特性を活かした医療

基本方針

上記の役割を踏まえ、次の基本方針により整備します。

- 1 地域医療を担う病院 → 救命救急医療、高度先進医療、災害拠点機能など
- 2 地域医療を担う医師等を育成する病院 → 総合診療医等の養成、看護師等のキャリア形成支援
- 3 研究機能を有する病院 → 臨床研究機能など
- 4 働く者にやさしい病院 → 医師・看護師等の子育て支援、柔軟な勤務体系など
- 5 経営環境の変化に柔軟に対応できる病院 → 財団法人による運営

医療再編の目的とその後

1. 県立病院の統廃合による赤字解消

○小出病院、六日町病院、十日町病院の統合

⇒十日町病院は途中で抜け、県立病院として存続

2. 魚沼地域の救急患者対応

○地域内に救急対応可能な病院の設立

⇒高度救急医療として、脳卒中、心疾と周産期。

現在は心疾患の対応ができない。

魚沼基幹病院黒字化計画(H30)

1. 3～5年後に全病棟をオープンする

＝そのため、キャリアの看護師の一定数の入職必要

不安要素⇒看護師数が少ないとオープンできない

○地域内の病・医院在籍の看護師がターゲットになる
可能性がある

2. 亜急性期の入院患者の処遇

＝受け入れ病院が少ないため、地域包括ケア病棟の導入

不安要素⇒他の病院の入院者が減少する可能性はある

○急性期でないため、包括医療でさらに赤字が増える可能性
がある

3. 循環器専門医、麻酔科医の増員の見通しなし

不安要素⇒救急対応が出来ない、救急システムの不備

知事「県財政は緊急事態」

借金比率が全国最悪

深刻化する財政危機を巡り、花角英世知事は7日、県庁で開いた行財政改革有識者会議の初会合で、県財政について「緊急事態」と位置付け、抜本改革の必要性を強調した。会合では、歳入規模に対する借金(県債)残高の割合が2017年度決算で全国最悪だったことなど、県の危機的な財政状況が改めて明らかにされた。有識者の委員たちも「緊急事態」との認識を共有した。

(関連記事3面に)

花角知事は財政立て直しの方策を議論する有識者会議のあいさつで、県財政について「歳入が大幅に減少し赤字決算が続いている」などと説明し、「まさに緊

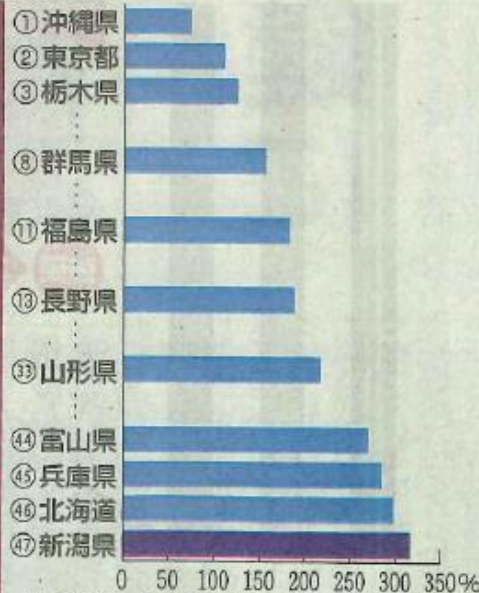
急事態」と述べた。知事が「緊急事態」との認識を明確に打ち出したのは初めてで、負担の大きい病院事業やインフラ投資の見直しは不可避の情勢となっ

た。

県が有識者会議で公表し

た資料などによると、国からの補助金などを除く17年

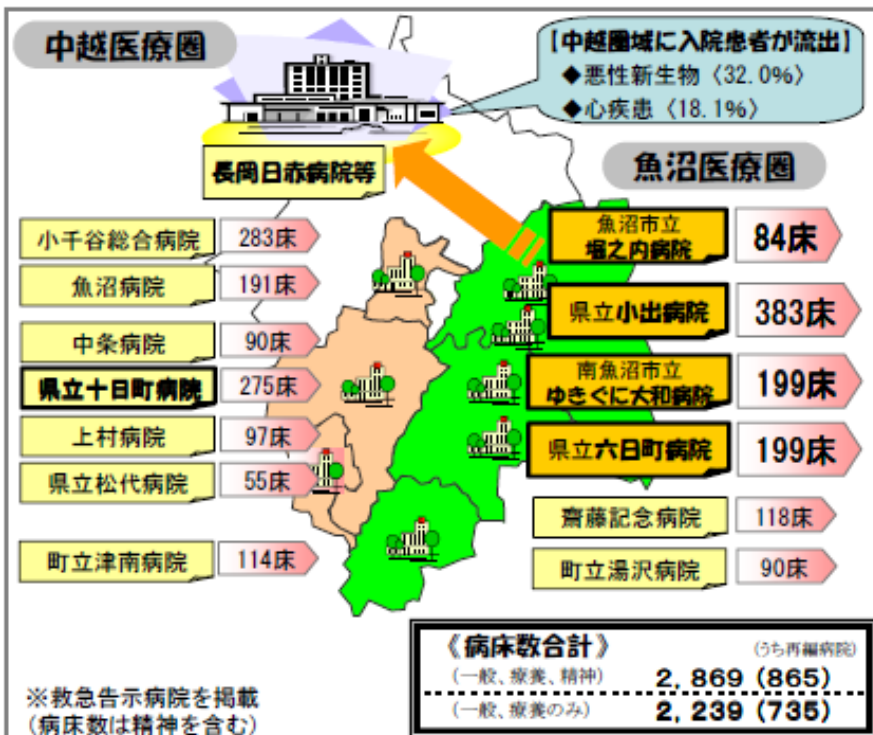
標準財政規模に対する県債残高(全国比較)



※県資料から全国上位・下位と近隣県を抽出。2017年度決算より。単位は%

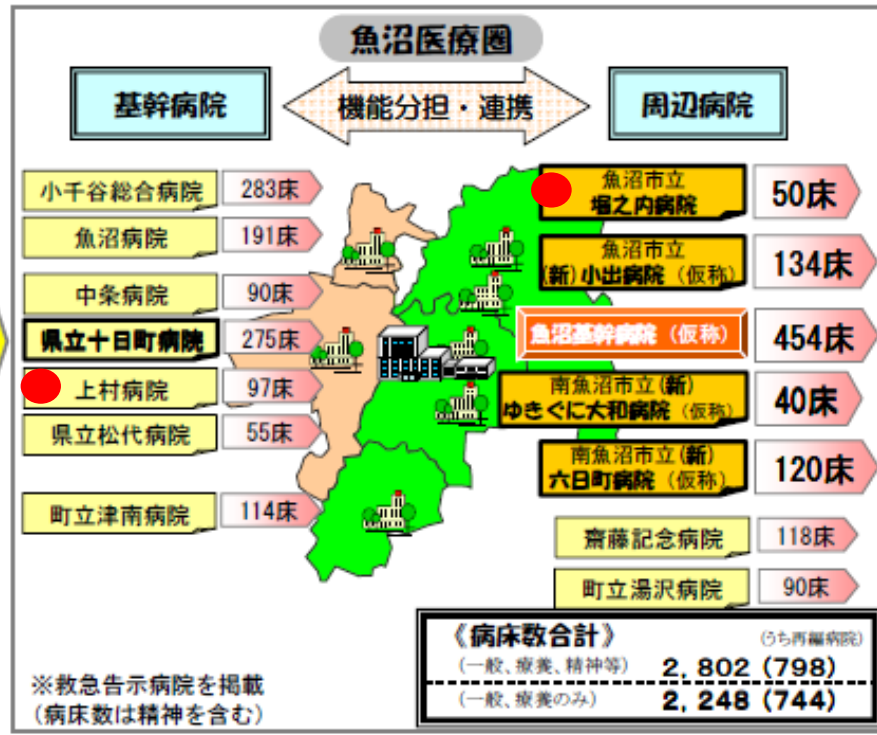
魚沼地域の医療再編について

再編前 (H23. 10. 1現在)



- 三次救急・高度医療は他圏域に依存
- 県内7圏域中で最低の医師不足地域
- 施設間で機能分担と連携ができていない
- 周辺病院の老朽化

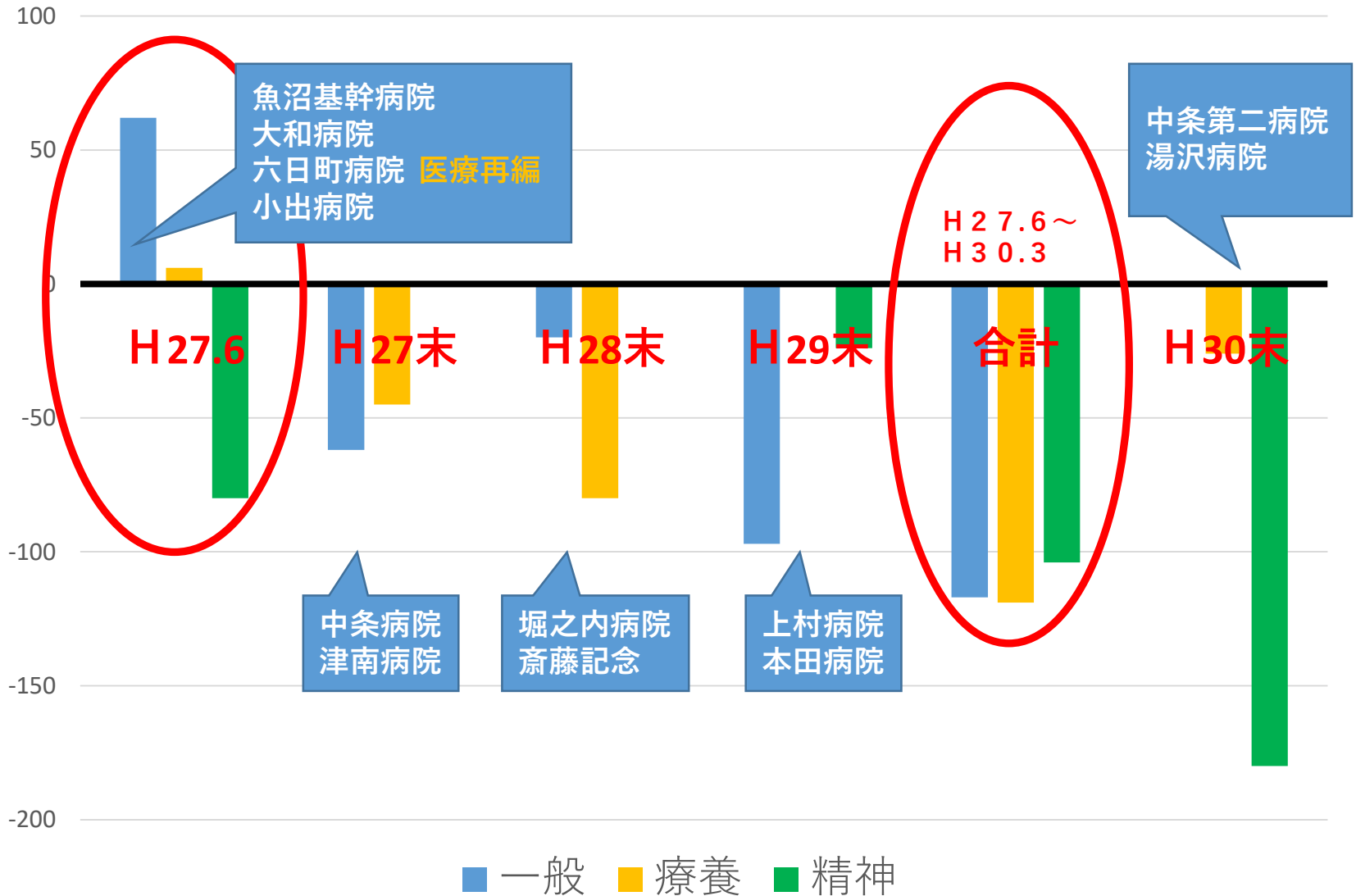
再編後 (H27. 6 予定)



- 三次救急医療や高度医療の確保
- 医療情報の共有と機能分化に基づく医療提供体制の構築
- 医師育成と医師派遣による協力体制の構築
- 病院経営効率化と経費削減

魚沼地域の病床数の動き

魚沼基幹病院開院後からH31.3まで

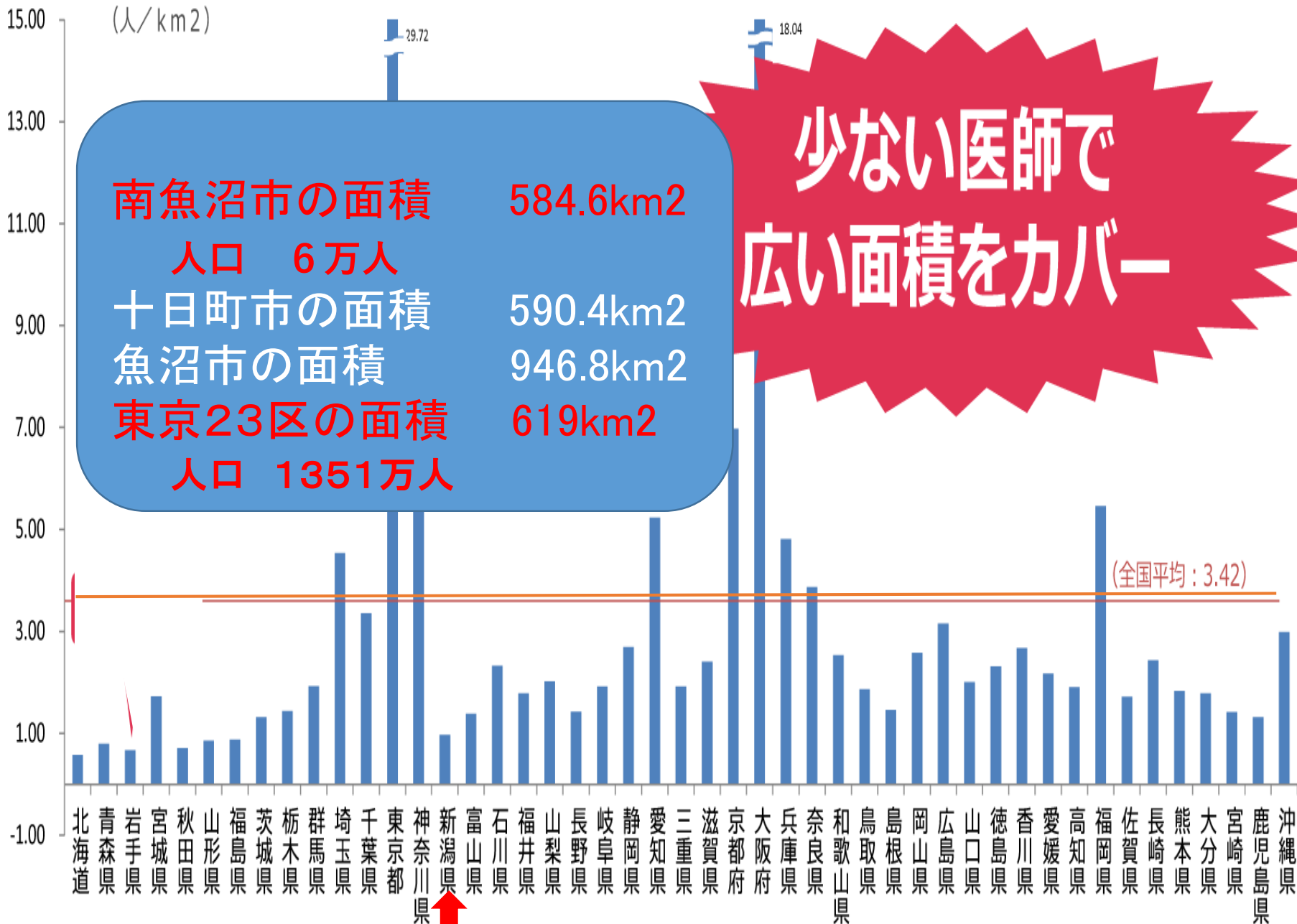


新潟県保健医療計画-病床数-

	医療計画	病床数	病院名	計画時	実態	差	改正日時
2014年(H26)	1085	1557					
↓			津南病院	114	62	▲ 52	H28.2
			津南病院		45	▲ 17	H28.4
			中条病院	90	0	▲ 90	H28.4
2017年(H29)10月	1109	1407					
<div data-bbox="156 711 826 868" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; color: red; font-weight: bold;"> 第7次新潟県地域保健医療計画 平成30年3月報告書 </div>			堀之内病院	50	0	▲ 50	H29.4
			上村病院	97	0	▲ 97	H30.4
			湯沢病院	90	64	▲ 26	
			斎藤記念病院	70	50	▲ 20	
2018年(H30) 9月		1205				▲ 352	
			魚沼基幹病院	454	308	▲ 146	
2018年(H30) 9月		1059				▲ 498	
2025年(厚労省)	1258						
2025年(県独自)	1328						

H30.9現在 利用可能な病床数

(人/km²)



南魚沼市の面積 584.6km²

人口 6万人

十日町市の面積 590.4km²

魚沼市の面積 946.8km²

東京23区 of 面積 619km²

人口 1351万人

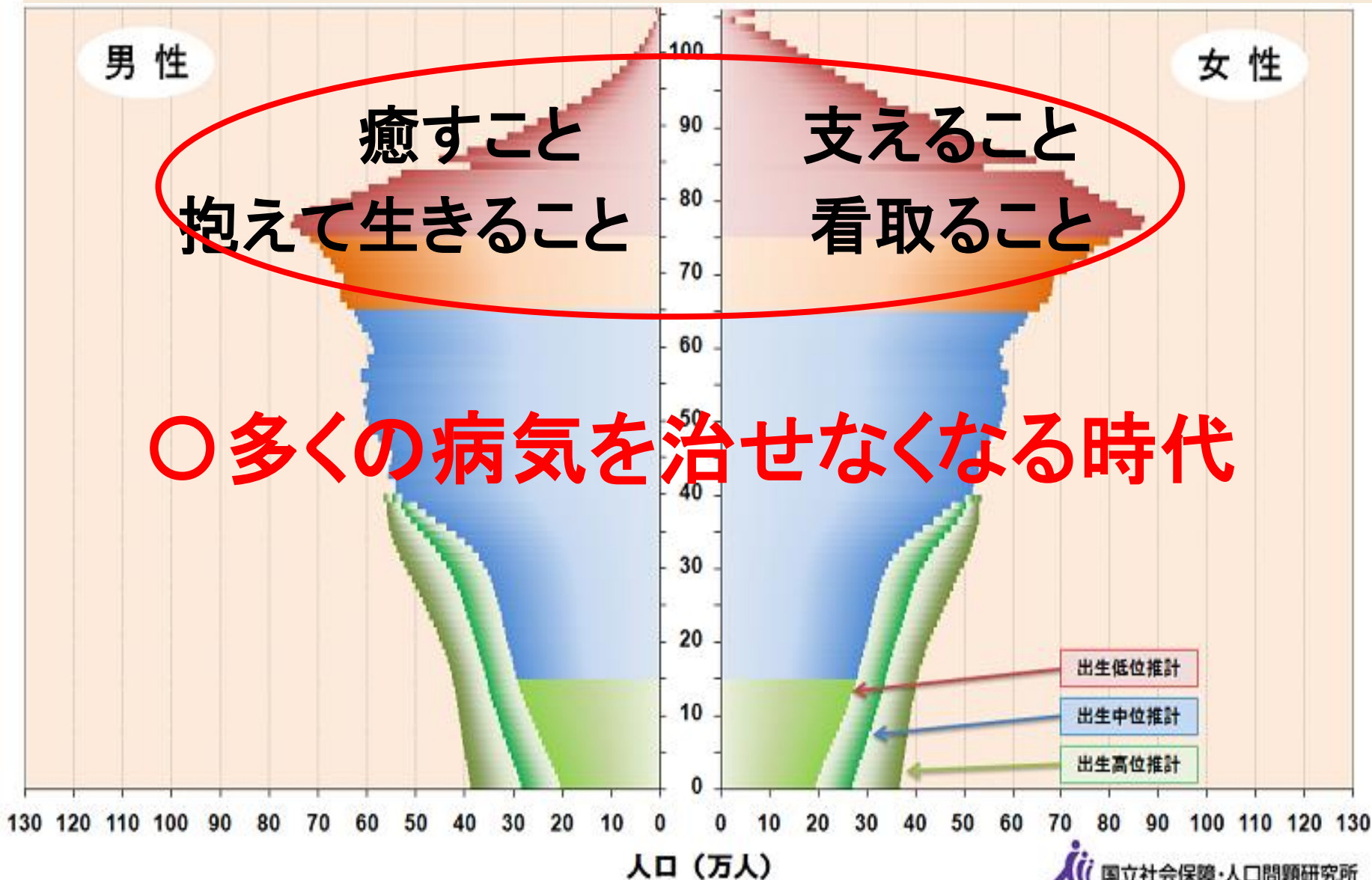
少ない医師で 広い面積をカバー

(全国平均: 3.42)

-1.00

北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

平成62年(2050年)の日本の人口ピラミッド



医師不足対策（現在、当院は法律上の定数は満たしています）

1. 新臨床研修制度（第1のパンドラの箱：2004年より）

①地方より都会、大学より大病院に医師が集中。地方大学解体。

②勤務医の減少と開業医の増加（地方だけでなく都市部でも）

2. 働き方改革（第2のパンドラの箱：2024年に完全開封）

①地方の医療機関がさらに医師数不足とカウントされて、廃院や無床化・・・黒字廃業に似る。

②医師は分散より、集中化・系列化への動きが加速（＝財務省と厚労省の狙い）⇔結果は、医療グループや有名大学による系列化。
但し、僻地・島嶼などは対象外(患者がない為)

3. 当院の対応

①医師不足⇔医療スタッフによる代理・代行（メディカルクラーク、特定看護師・認定看護師など）⇔将来はAIによる代理、代行

②医師供給⇔A.大学(自治、北里など)のポスト研修医(初期、後期はOK)

⇔B.個別交渉・常勤化(若者には生活環境・賃金が厳しい)

⇔C.医療グループからの派遣(財政支出バランスが難しい)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

2016-2030年

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

駒ヶ岳(2003m)

中ノ岳(2085m)

八海山(1778m)

SDGs(持続可能な開発目標) Sustainable Development Goals (2016-2030)

3. 全ての人に健康と福祉を
地域包括医療・ケアシステムの推進＝
質の高い保健・医療・福祉の確保と連携

目指すべき医療の概要

1. 地域を総合的に支える医療(=地域包括医療・ケア)

- 福祉との連携(看護師の人事交流)または統合 *地域完結ではない
- 病病、病診連携(=魚沼米ネットの活用/魚沼基幹病院が中心?)
- 診断・治療・リハビリにAIの導入(=医師数と診療科の削減可能)

2. 患者中心の医療(緩和・伴走医療)

- 患者ファーストの医療(初めから最期まで、伴走する医療)
- 看取りの選択(終末期医療の確立=「人生会議」の開催/大和病院で実践)

3. 患者・家族の生活の質(QOL)を高める医療

- 多職種による連携(医療から介護まで、入院から在宅まで連続した対応)
- 医療の質の確保(入院、外来、在宅)=田舎でも最新医療の提供を目指す
- センター化(リハビリセンター、腎透析センター、認知症診断・治療センター)

4. 疾病予防を目指す医療(=先制・健康医療)

- 健診により、ガン、認知症、生活習慣病(高血圧、糖尿病、高脂血症)を早期発見するとともに、予防的対応(Preacuteの考え方を利用)
- 寄付講座→Active Ageing(社会参加する年齢)と健康寿命の延長の研究

南魚沼市立病院群

病院事業管理者

医療福祉センター長

院長

ゆきぐに大和病院

院長

南魚沼市民病院

特別養護老人ホーム

健康管理部

予

検診センター

防

健友館
検診部門

看護部

診療部

技術部

地域医療連携室

八色園

福

みなみ園

社

関

舞

連

ホームケア
ステーション

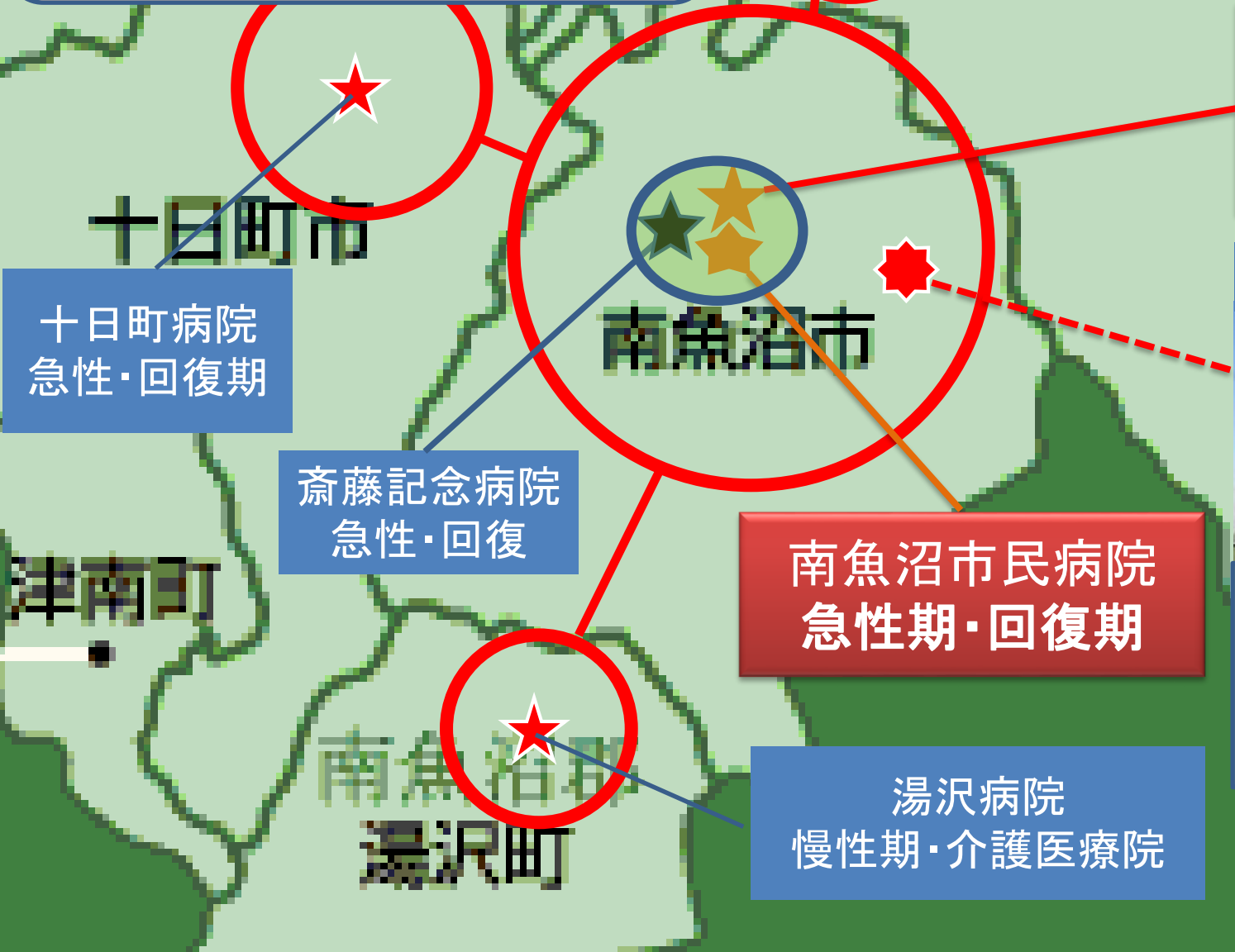
認知症疾患
医療センター

訪問看護
ステーション

訪問・在宅医療

雪椿

医療再編(第二次) 病院の連携と区分け



小出病院
回復・慢性

ゆきぐに
大和病院
回復・慢性

魚沼基幹病院



高度救急
急性期
慢性期(×)

病院事業のまとめ

1. 第1次医療再編の結末

- 1) 魚沼基幹病院の変質
- 2) 地域の3病院閉鎖で医療難民

2. 南魚沼の医療問題

- 1) 構造的な医師不足は非医師化とIoT化

3. 南魚沼市民病院群の今後

- 1) 魚沼圏域の医療機関の連携と区分け推進
- 2) 南魚沼市民病院の診療科の整理
- 3) ゆきぐに大和病院の診療科の充実